

平城京貴族住宅の復原模型

平城宮跡発掘調査部

当研究所は1973年と74年の両年度、現奈良市序舎敷にあたる平城京左京三条二坊十坪と十五坪において発掘調査を行った。その結果、奈良時代十五坪に方一町を占有する大規模な邸宅が當まれていたことを明らかにした。検出した建物群や掘、井戸はその中心部をなすものと考えられ、平城京の宅地の使用状況を知るうえできわめて貴重な発見となった。本模型は、この発掘結果をもとに、十五坪の宅地北半分およそ6割を縮尺1/100で復原したものである。模型の大きさは1.5m×1.0mで主材料は十分乾燥した桧を用い、設計と製作によよそ7カ月を要した。

以下に復原の概要を述べよう。まず調査の所見からこの邸宅の居住者を三位程度の高官に想定した。建物等の配置は奈良時代初頭のものをとり、宅地中心部は発掘調査の成果に従ったが、発掘区外となる坪の周辺部には倉庫、厨、厩舎等の雜舎を想定して配置した。植栽についてはよるべき資料がないが、模型の雰囲気を盛りあげるため、適宜樹木、灌木を配置した。建物の構造はすべて掘立柱とし、住宅であることを考慮して複雑な組物を用いない簡素なものとした。屋根葺材は出土瓦で奈良時代初頭にさかのばる型式のものが僅少なため、すべて桧皮葺・板葺で処理したが、ただ東三坊大路に面する築地だけは坊を画する大垣なので瓦葺とした。

製作にあたって、建物の表現性を高めるため屋根の表現には特に意を用い、また見えがかり部分についても同時代の造構を参考に精密な工作を施した。

(中村 雅治)

